

第 10 回熟議『学校選択制』（8 月 30 日）B グループ 主な意見とまとめ

【主な意見】

（学校の特色づくり、教員の人事異動について）

- 学校の特色は、やはり個々の教員の能力によって作られていくと思うので、人事制度として、そういったものをバックアップするようにするべきだと思う。私学の場合は有名な先生がいるから選ばれることが多いので、公立の小中学校にもそういうことがあって良いと思う。保護者としては、その先生がいるから、その学校を選んだのに、入学した時点で、もう 7 年目なので異動するというようになってしまっただけでは、せっかくそういう先生による特色があっても支えきれないということになるので、学校を教職員の人事の面からどうバックアップするかについても学校選択制を支えるものとして整備して頂きたいと思う。
- 教職員が個人で動くのではなく、学校全体として動くという考えからすれば、ある程度の年数で教職員が異動し、入れ替わることは、組織として、公立学校としては当然かなと思う。学校全体としてチームワークで考えていくのであれば、ある程度の人事異動のなかで、どれだけ学校として子どもたちの教育に携わっていけるかということを考えていく方が良いと思う。
- 小学校は先生自身の資質を高めるということで、現行の方法で良いと思うが、中学校については先生は各教科を専任されているので、その教科の専門性や、クラブ活動の顧問を先生方をお願いする事が出てくるので、そのクラブ活動、あるいはその教科の面からも、ある程度固定化する、あるいは固定化しないまでも、異動があった場合は同じような特質を持った先生が着任するようにするなど、学校の特色づくりを支援するような人事制度が必要だと思う。
- 学校は財政的な問題で図書室を管理する司書の先生も配置できていないというのが現状なので、特別な能力のある先生を配置するようなところまでいうと、かなりの人件費が必要になることから、現実論としては、学校の特色をつくる上では地域の方々とどうコラボレーションさせて頂いて、お力を借りていくかという事が一番肝心になるのではないかなと思う。地域の方々は固定でそこにお住まいなので、その方々に協力してもらうことによって継続的な特色をつくることできると思う。そういう部分で魅力的な学校づくりというのは、先生だけでは、学校だけではできないのではないのかという視点でつくっていかうというような提言もあって良いと思う。

(熟議の議論の整理項目について)

- 「はじめに」のところをどういう風に文章にするかについて、何をほんとに気をつけなければいけないかを、皆さんの意見として分かりやすく、読み漏らすことのないように、一番目立つようにして頂きたいと思う。
- 2番の学校選択制、指定校変更の実施状況のカッコ学校選択制の実施状況について、学校選択制を実施しているところは実際に少ないと思うが、何故実施していないところが多いか、という観点も入れてほしい。
実施している自治体が、東京都や主な政令都市ぐらいで、地方の一般都市に実施しているところが少ないことが、何故なのか疑問に思っていた。
- 確かに「はじめに」というところがさらっと流れるのではなく、制度改善に向けた観点として、何のためにこれをやるのかというのを最初にはっきり書いておかないといけないと思う。
このBグループでは、学校選択制に対して懸念というか、心配する意見が多かったと感じているので、その雰囲気というのもちょうんとまとめないといけないと思う。
2番についても、例えば8割で実施していないのであれば、その理由が何だったのかということを入れることによって伝わりやすくなると思う。
選択の自由とか大多数の意向と言われると、一番大事な公教育で守らなければならない部分が切り捨てられがちになるので、ただ大きい声が通ればいいというのが公教育ではないので、その価値をはじめに書かないといけないと思う。
公教育において、過度の特徴付けは格差につながるから難しいなかで、学校を選ぶということはプラスの面ではなく、あそこに行きたくないという忌避の観点での選択が多いと思う。大阪市内で実施した時にどういう結果が出るか、選ぶのではなく、行きたくないところを回避することにつながるというところは、はたしてメリットといえるのかというまとめも必要だと思う。
アンケート結果について、指定外就学のことを十分に説明しないままアンケートをとっているが、正確に伝えることでまた違う結果になると思う。本当に必要なお子さんは指定外就学で指定校を変えることができるうえで、更に特色にそった選択が必要か、また適切かという形でアンケートをとらないと、保護者の意向の反映にならないと思う。
- 読んでも意味が分からないところも多いので、言葉の意味の注釈などもつけることも必要だと思う。
- 今の制度でどこまでできるのか、更に何をカバーするのかという観点を入れて説明しないと、保護者の方は分からないと思う。

- 学校選択制のとらえ方は人それぞれで違うと思うが、究極的には何の条件もなく好きなところを選べるというのが学校選択制だと思うので、何故適正就学の話がここに出てくるのかという考えかたもあると思う。
- プラスの理由で選ぶ場合、良い先生がいることやクラブ活動などがあると思うが、やはり学校が荒れているからとか、地域的にここは嫌だとかマイナスの理由で選択する方が実際には多いと思う。
- 他都市で選択制を取り入れていることと、大阪で取り入れることは全く違う問題なので、大阪ではこうじゃないかという事を気をつけて整理して頂きたい。
- ネガティブな理由で学校を避けるということは守られて良いと思う。それこそが保護されるべきだと思うので、例えば荒れてる学校に行きたくないということは守られて良いと思う。行かなければならないということが押しつけられることがいけないと思う。
前向きな理由だけで選ぶよりも、ネガティブな理由で避けたいということが拾われることも非常に重要だと思う。
もしネガティブな学校があつて、ネガティブな保護者の選択が多いことが起こったら、そこを徹底的になおしていくことが必要だと思う。